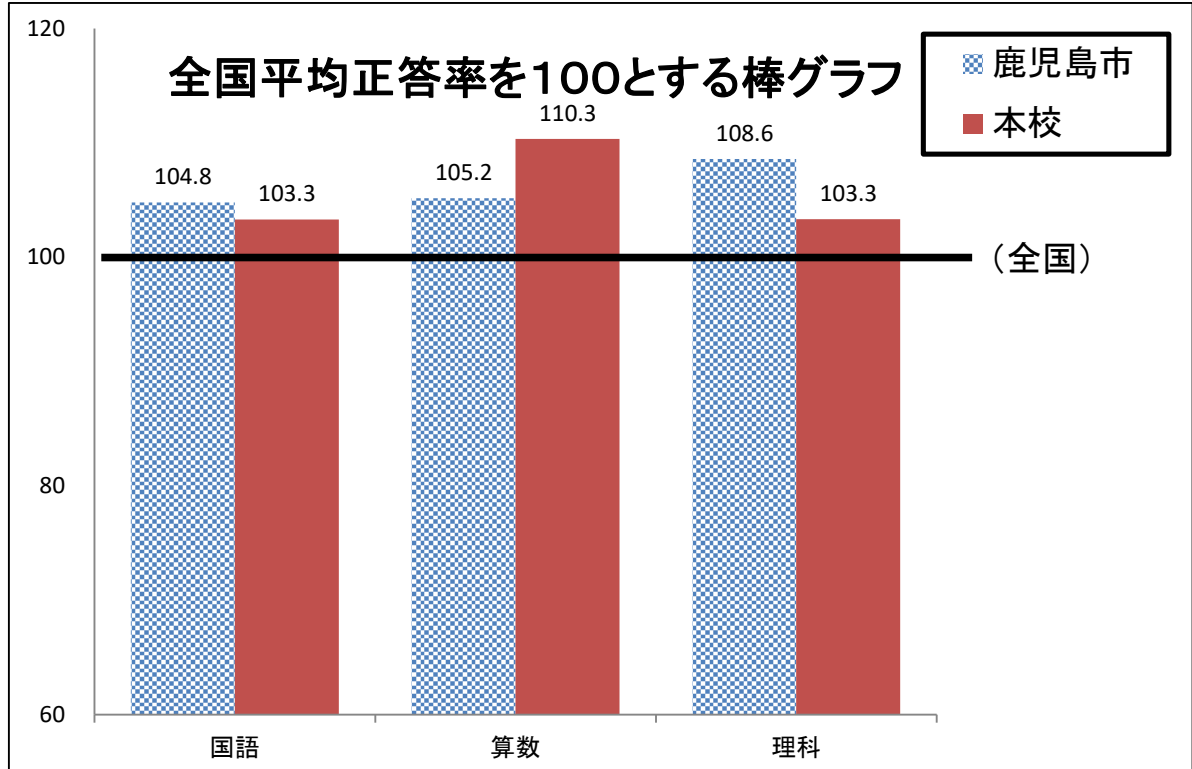


令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

荒田小学校

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

【国語】

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。そこで、文章を書く目的や意図を確認して伝えたいことを明確にしたり、事実が考えを裏付けるものとなっているかどうかを確認したりできるように指導を徹底し、授業の中では、児童同士でも書いた文章を読み合い確かめ合う場を設定する。

【算数】

分数(異分母)の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述することに課題が見られた。そこで、授業の中で、段階的な記述練習として言葉で「 $1/12$ の9つ分」のように数式と対応させて記述する練習をさせたり、児童が自分の考えを言葉で説明する機会を設けたりすることで、理解を深めるようにする。

【理科】

電流がつくる磁力(電磁石の強さとコイルの巻き数の考え)や乾電池のつなぎ方(直列つなぎに関する知識)等いずれも5年時学習についての知識に課題があった。そこで、6年「電流がうみ出す力」の学習の際、5年時の復習を設定し、しっかり知識を身に付けるようにする。

【全体的に】

児童質問調査の結果から、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする経験が少ないことが分かった。そこで、教科学習の中での話し合う場面設定を充実させるだけでなく、学級活動等においても、話し合いの目的を明確にし、対話の質を高める工夫として、「自分ごと」として捉え、主体的に考えたいような具体的で身近なテーマを設定し、話し合いを促す環境を設定していきたい。また、話し合いにおいては、「相手の話を最後まで聞く」「相手の意見を否定しない」など、明確な対話のルールを事前に設定し、全員が参加する話し合いだけでなく、少人数グループに分かれて話し合う機会を設けることで発言しやすい雰囲気をつくるなど、心理的安全性の高い話し合いを築くようにする。